

# 宝石学会（日本）ニュースレター

第 31 号 2024 年 2 月

## 2024 年度講演会・総会のお知らせ

2024 年の宝石学会(日本)講演会・総会は下記のように東京で開催します。今年は、学会発足 50 周年になるため記念行事を企画しています。

皆様のご参加とともに一般講演申込みをぜひお願いします。

### 【講演会・総会・懇親会・50 周年記念行事】

日時：7 月 13 日 (土)~14 日 (日)

会場：オーラム（東京都台東区東上野 1-26-2）

### 【一般講演申込案内】

一般講演の発表を希望される方は、宝石学会(日本)ホームページ (<http://www.gakkai.ac/gsj/>)から「宝石学会(日本)年会一般講演申込書式」のテンプレートを当会ホームページよりダウンロードし、案内に従って作成をお願いします。なお、プログラムに掲載するため B5 版で作成してください。

提出は **6 月 10 日 (月)**までに電子メールで庶務担当幹事江森 ([emori@cgl.co.jp](mailto:emori@cgl.co.jp))までお送りください。

尚、当学会では毎年の学会発表要旨を電子化し、独立行政法人科学技術振興機構 (JST)が構築した「科学技術情報発信・流通総合システム (J-STAGE)」のホームページ上で公開しております。要旨を提出される際には必ず英文のタイトルと抄訳をご記入ください。

(幹事会)

## 評議員選挙開票・評議員会報告

2023 年 12 月 1 日、真珠科学研究所において、選挙管理委員 2 名 (沢井寿哉氏、齊藤宏氏) と立会人 (江森健太郎) の下に開票が行われました。その結果、選挙規則第 10 条および 11 条により、評議員 13 名が選出されました。(有権者数：94 名、投票総数：53 票、有効票数：51 票 (無効票：2 票))

また、2024 年 1 月 11 日(木)に行われたオンライン評議員会で担当が決まりましたので報告致します。

- ・会長(兼編集担当)神田久生(元物質・材料研究機構)
- ・評議員 勝亦 徹 (東洋大学理工学部)
- ・評議員 川口 昭夫 (京都大学 複合原子力科学研究所)
- ・評議員 宮崎 智彦 (ジェムリサーチジャパン)
- ・評議員 山崎淳司 (早稲田大学創造理工学部)

- ・ 常任評議員 (情報担当) 林政彦 (早稲田大学理工学術院総合研究所)
- ・ 常任評議員 (会計担当) 矢崎純子 (真珠科学研究所)
- ・ 常任評議員 (会計担当) 山本亮 (真珠科学研究所)
- ・ 常任評議員 (行事担当) 高橋泰 (山梨県立宝石美術専門学校)
- ・ 常任評議員 (行事担当) 古屋正貴 (日独宝石研究所)
- ・ 常任評議員 (会員担当) 渥美郁男 (東京宝石科学アカデミー)
- ・ 常任評議員 (庶務担当) 北脇裕士 (中央宝石研究所)
- ・ 常任評議員 (庶務担当) 江森健太郎 (中央宝石研究所)

評議員会では上記の新規評議員選挙に関する議案のほか次の議案について審議が行われました。

2024 年度の一般講演会・総会の実施方法、50 周年記念行事として記念誌の発行やロゴマークの制定、オンライン行事、次号の学会誌など。

この中から、次にいくつか詳しくお伝えします。

(評議員会)

## 宝石学会誌 50 周年記念誌発行と寄稿文執筆依頼

この記念誌に、会員より一言、ということで、各会員 (できれば全会員) より宝石に関する思い (私の推しの石、思い出の石、宝石学とは、学会に期待することなど) を寄稿していただき掲載したいと思います。つきましては以下の要領で執筆をお願いします。

### 【執筆要領】

- ・ タイトル、氏名、本文 (2000 字以下) を記載。
  - ・ 写真 1 枚の挿入可
  - ・ 文章のファイル形式はワードで、写真は画像ファイルで、電子メールに添付して送信ください。(電子メールが不可の場合は、印刷して学会事務局宛に郵送でも構いません。)
  - ・ 締切：2024 年 7 月 31 日
  - ・ 送付先：kanda234@ybb.ne.jp(編集担当神田久生)
- なお、本記念誌には、他に、既刊の宝石学会誌の総目次も載せる予定です。

(幹事会)

## 当学会のロゴマーク制定とその原案募集

ロゴマークの作成についてニュースレター28号で告知していましたが、次の要領で実施します。ふるってご応募ください。

### 【実施要領】

#### ●応募資格

宝石学会（日本）会員に限ります。

#### ●応募について

ロゴ原案を当会事務局へ電子メールでお送りください。

自作の未発表作品であれば、何点でも応募できます。その際、次の①～③をメールに添付して送ってください。

① 原案

② 原案コンセプト（原案に込めた意味や思いなど）

③ 応募者情報（氏名・メールアドレス）

※ロゴマークに文字情報を載せる場合は、

宝石学会（日本）

または Gemmological Society of Japan

としてください。

#### ●提出に関する注意事項

- ・原案は電子メールに添付する
- ・ファイル容量は5MB以下、300dpi程度、A4サイズに収まる程度
- ・データ形式はpdf/jpgファイル、可能であればai/eps/psdファイル（いずれか一つ）
- ・色数や縦横比は不問、ただし単色およびモノクロでの使用も想定したデザインとすること
- ・縮尺を変更する場合でもイメージが損なわれないものであること

#### ●賞

賞状と副賞を授与します。

#### ●応募締切

**2024年3月31日（日）**

#### ●選考方法

- (1) 応募原案から幹事会で優れた案を数点選択します。
- (2) 選択された原案をデザイン会社に依頼してブラッシュアップし、応募者の了承後、候補作品とします。
- (3) 候補作品から、会員の投票によりロゴマークとして採用します。

#### ●応募上の主な注意事項

- ・採用作品が他の著作物の著作権等を侵害する恐れがある場合は、採用を取り消します。
- ・採用した作品に関する著作権等の一切の権利は宝石学会（日本）に帰属し、必要に応じて作品を補作・修正することがあります。
- ・提出いただいた情報は厳重に管理し、採用審査の用途に限り使用しますが、入賞者の氏名は公表するこ

とがあります。

●応募・問い合わせ先：宝石学会（日本）事務局

e-mail: hosekigakkai.nippon@gmail.com

（幹事会）

## オンライン交流会とその利用案内

会員同士が望むときに交流し、宝石に関する情報交換や意見交換を行うことでできれば、会員がお互いをよりよく知り、宝石に関する知見が増すとともに、学会も活性化することが期待されます。そのためのオンライン交流会に、当学会が契約しているzoomを希望する会員に利用できるようにします。

### 【利用方法】

- ・実施希望者が当会 zoom 管理者（江森健太郎氏）に利用日時を申し出て、許可を得る。
- ・実施希望者は、実施案内を学会メーリングリストで会員に送る。実施希望者が望む会員に個別に送ってもよい。
- ・実施希望者は、参加希望者を取りまとめ、zoom 管理者に伝えて、ミーティング ID とパスコードをもらい、参加希望者に転送する。
- ・参加は会員に限る。
- ・交流会は目的外の使用を避けるため録画する。

（幹事会）

## オンラインランチタイム講演会報告

**日時：2023年9月20日（水）12:00～13:00**

**講演者：門馬綱一氏(国立科学博物館)**

**タイトル：ブラジルのアメシスト鉱山とトルマリン鉱山における鉱物の産状**

参加者：22名

概要：ブラジルは鉱物・宝石の大国であることはよく知られていますが、そのブラジルのアメシストとトルマリン鉱山へ調査に行かれたたことの紹介でした。

アメシストはアメチスタドスルという町の地下にある火山岩の中から産出する、というか、アメシスト鉱山の上に町ができていくということのようです。この町はアメシストに支えられて存在するので町の人々もアメシストを大事にしており、教会の内壁全面がアメシストという写真は壮観でした。アメシストは円柱状の空洞の内面にびっしり生えていました。それを縦割りにして内面がみえるようにしたものをミネラルショーで見たことがあります。そのような円柱状のものがどのように産出するのかよくわかりました。

アメシストの成因に関して、巨大な空隙やアメシストの生成プロセスの詳細についてはいまだに議論があるようです。

この講演を聞いて、数年前、荻原さんが紹介された水晶“ハーキマーダイヤモンド”のことを思い出しました。同じく空洞の中に成長した水晶ですが、こちらは、空洞内面に貼りついていた成長ではなかったと思います。この成長の仕方の違いについても興味深いです。

トルマリンについては、ミナスジェラス州のトルマリン鉱山の紹介でした。ゴルコンダ鉱山、サポ鉱山、アリカンガ鉱山で、トルマリンはペグマタイトの中の空洞に産出するので、一つの空洞が見つかる、その空洞を探し終わるまでは外部には見せないとか。

(神田久生)

## IGC2023 参加報告

第 37 回国際宝石学会 (IGC2023) 本会議が、2023 年 10 月 24 日 (火) -27 日 (金) に東京上野の国立科学博物館本館で開催されました。本会議に先立ちプレカンファレンスツアーとして、新潟県糸魚川のヒスイ巡検を行い、本会議後には富士山スペシャルツアー、ポストカンファレンスツアーとして、三重県伊勢志摩の真珠巡検を行いました。また、10 月 23 日 (月) には、上野精養軒にてオープンセッションが開催され、100 名近くの国内の業界関係者に参加いただきました。準備段階では Covid19 やウクライナ情勢などの影響が心配されましたが、IGC2023 には世界 26 の国と地域から総勢 80 名が来日されました。

### 【IGC2023 の運営】

IGC2023 の組織委員会は、中央宝石研究所の北脇

と江森健太郎氏、東京ジェムサイエンスの阿依アヒマディ博士、日独宝石研究所の古屋正貴氏 (以上、宝石学会 (日本) 会員) およびジェム Y.O の大久保洋子氏で構成され、国立科学博物館の宮脇律郎博士、門馬綱一博士にも加わっていただき、国立科学博物館の後援を得て運営されました。IGC2023 日本開催にあたり、多くの団体および個人の皆様にご支援を頂きました。宝石学会 (日本) からは当初 150 万円の協賛金を頂きましたが、円安の影響と滞りなく運営できたことで、最終的に 577,285 円を返金させて頂きました。宝石学会 (日本) の皆様のご協力に感謝いたします。

### 【プレカンファレンスツアー】

10 月 20 日 (金) -22 日 (日) はプレカンファレンスツアーとして、新潟県糸魚川のヒスイ巡検が行われました。総勢 31 名の参加者は、20 日 (日) の午前 8 時に上野駅の中央改札口前に集合し、北陸新幹線で一路糸魚川に向かいました。海外の皆さんは日本の自動改札に慣れていないせいか、改札口では渋滞を引き起こしてしまい、停車時間の短い新幹線に荷物の多い方々を時間内に乗せるのは一苦勞がありました。

糸魚川巡検の案内はフォッサマグナミュージアム館長の竹之内 耕博士と糸魚川市ジオパーク推進室のセオドア・ブラウン氏が務めてくれました。2 泊 3 日の糸魚川ツアーでは、宝石学会 (日本) の見学会でも訪れたヒスイ狭、フォッサマグナパークや海岸でのヒスイ探しの他、長者ヶ原遺跡考古館、長者ヶ原遺跡公園、翡翠園や玉翠園を訪れました。



本会議の会場となった国立科学博物館正面玄関前にて IGC2023 参加者

## 【オープンセッション】

10月23日(月)にオープンセッション(講演会と懇親会)が上野精養軒に開催されました。IGCの本会議は、各国代表のメンバーとオブザーバーおよび一部のゲストのみが参加可能ですが、このオープンセッションは、日本の宝飾業界関係者に幅広く参加いただき、宝石学の最先端の情報に触れ、海外の研究者との交流を深める機会を提供するために企画されました。IGC Member から4名の講演を頂き、日本からは2名の方に講演をいただきました。うち、1名は宝石学会(日本)の神田久生会長で、「日本の合成ダイヤモンド研究の歴史」について英語で講演していただきました。昼食懇親会では専門の演奏者が届ける和楽器(三味線、琴、尺八)の音楽が流れる中、国内外の参加者同士による交流や討論等が行われ、有意義な時間を過ごすことができました。



オープンセッションで講演中の神田会長

## 【本会議】

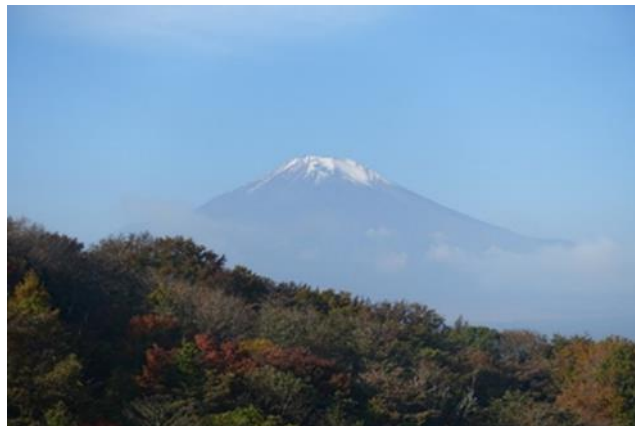
本会議では47件の口頭発表と2件のポスター発表が行われました。Diamond: 5題、History and Museums: 5題、Gemmology: 6題(1題はキャンセル)、Colored stone: 12題、Technology & Techniques: 5題、Corundum: 8題、Pearls and amber: 5題、Jade: 3題でした。

なお、IGC2023の講演内容は、IGCのホームページにて、すべての講演者の講演要旨がダウンロード可能です(<https://www.igc-gemmology.org/igc-2023>)。

## 【富士山スペシャルツアー】

本会議終了後、特別に企画された甲府ツアーが行われました。このツアーは「日本に行ったら富士山をこの目で見たい」というIGC Executive Committeeの強い希望と、甲府のジュエリー産業をIGCのメンバーに見ていただきたいという甲府の業界関係者らの強い要望から実現しました。特にこのツアーでは天候を心配しておりましたが、宿泊したホテルから早朝には雪を冠した富士山が姿を見せ、参加者は大満足で、主催者はホッと胸をなでおろしました。48名の参加者は数班に分かれ、甲府のジュエリー産業の一端を担う

工房や、博物館を見学しました。また、山梨のジュエリー業界の皆さんと懇親会を持つことができ、密度の高い国際交流が実現しました。



ホテルから富士山を望む

## 【ポストカンファレンスツアー】

10月29日(日) - 31日(火)はポストカンファレンスツアーとして、三重県伊勢・志摩の真珠巡検が行われました。巡検のコーディネーターと現地案内は三重県真珠振興協議会副理事の中村雄一氏にお世話になりました。総勢25名のIGC参加者は、早朝に甲府のホテルをバスで出発して、午後3時ごろ鳥羽のミキモト真珠島に到着しました。真珠島では最初に三木本幸吉翁の銅像前で記念撮影を行いました。この像の前は、記念撮影をしたい観光客の人気スポットです。IGCメンバーの中にはここで写真を撮るのが長年の夢だったという方もおられ、念願がかなったようでした。このツアーの目玉は真珠養殖現場の見学です。観光用ではなく、実際に養殖作業に使用されている3隻の船に分乗して英虞湾をめぐり、養殖イカダを見学。貝掃除、挿核の実演を見学しました。そして、最後はIGCメンバーが一人ずつ自身の手で貝を剥き、真珠の取り出し作業を体験できました。最後は伊勢神宮参拝です。皇大神宮は皇室の祖先であり、天照大御神が祀られています。内宮の入口である宇治橋をわたり、玉砂利を敷き詰めた長い参道を進むとまさに神域です。凜と張り詰めた雰囲気から日本人の精神世界を感じてくれたと思います。(北脇裕士)

本ニュースレターの著作権は本学会が所有しますが、著名入り記事の執筆責任はそれぞれの著者にあります。

宝石学会(日本) ニュースレター(第31号)

2024年2月 発行

編集: 神田久生、渥美郁男、江森健太郎、北脇裕士、高橋泰、林政彦、古屋正貴、矢崎純子、山本亮

発行: 宝石学会(日本)

東京都台東区上野3-20-8 小島ビル6階